

ヒメジ理化株式会社

代表取締役社長 赤 鎭 充 氏

半導体製造装置に使用される石英ガラス加工を中心に
県外へも事業拡大し、2023年度グッドカンパニー大賞
グランプリ(注1)を受賞された

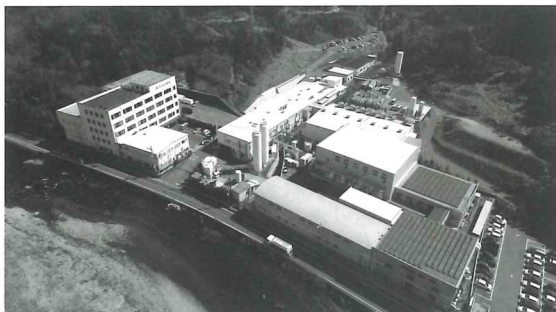
ヒメジ理化株式会社 代表取締役の 赤鎭 充 氏に
お話を伺いました。

会社概要・沿革

当社の創業は1965年で当時は一般・産業用照明のバルブ（ガラス部分）を製造し、下請け企業として大手産業照明機器メーカーへ供給を行っていました。1993年頃から半導体製造装置向けの石英ガラス加工事業に参入しましたが、1996年、元請けである石英ガラスの商社が倒産したことから、自社で新たに営業をすることになりました。現在もその元請けの会社があったならば、当社は変わらず下請け企業として続いていたと思います。

2000年代に入ってからプロジェクター用ランプの需要の高まりにより事業分野を広げつつも、しばらくは照明向け事業が中心でした。しかし、2011年の東日本大震災以降は照明のLED化が進んだため、業績も伸び悩む事態に陥り、2013年頃から本格的に半導体製造装置向け事業へシフトチェンジしました。

2015年には大手装置メーカーの認定を取得し受注が増加したことを契機に、7社のM&Aや独自の投資を積極的に続け現在に至ります。2013年3月の売り上げが約23億だったのに対し、2023年には153億まで成長することができています。



経営理念

創意と工夫で進化し、誠実と感謝を信条とし、
健全な経営で社会に貢献する



経歴・趣味

姫路市夢前町出身。大学卒業後、3年ほど医療機器メーカーに在籍。その後、ヒメジ理化(株)の仕入れ兼販売代理店でもあった企業の子会社へ就職し石英ガラス加工の技術を習得する。2年後ヒメジ理化(株)へ就職。2016年代表取締役社長に就任。
趣味はスキー、アニメを見ること。

お客様、サプライヤーに喜んでいただける、そして何より従業員が誇りをもって働ける会社を目指しています。例えば、同窓生で集まった時に「ヒメジ理化で働いている」と言えば「良いところ行ってるな」と言ってもらえたり、タクシーで「ヒメジ理化まで」と言えば「あそこはいい会社ですよ!」と言ってもらえたり…。そんな地元の良い会社となることが目標です。

従業員教育

中途採用による従業員拡大

現在、従業員数はグループ全体で800名、そのうちヒメジ理化の従業員が600名で、うち400名は姫路勤務、残り200名は福島に勤務しています。事業拡大に伴ってハローワーク経由で中途採用を積極的に行い、従業員数はここ3年で260名程増加しています。離職率は直近3年で4%と定着率も高いです。他にも従業員から家族や友人を自発的に紹介いただき採用に至るケースも多く、従業員が会社を信頼しているからこそだと思うので、非常にありがたく感じています。

石英ガラス加工のエキスパートを育てるために

当社の強みは、半導体製造装置に使用される石英ガラスを、火と職人の手によって組み立てる『ハンドメイド加工』にあります。元々照明向け事業で石英ガラスの加工に精通している従業員が在籍していたため、半導体装置向け事業へ技術と人員の転用が可能でした。また随時新しい人員を確保していたことで教育ノウハウが既に構築されており、技術継承がスムーズでした。技術職は“人”が育ちにくいと言われますが、その問題が解消されていたことが大きな成功要因だと思います。ハンドメイド加工以外に機械加工も行いますが、大きな石英ガラスのブロックからパー

ツを削り出すのみで、組立ては全て人の手で行っています。技術承継は基本的にOJTで行い、マシニングセンタなどの一般的な機械加工については外部研修に行かせるようにしています。また、入社直後の従業員はある程度の技術を習得させてから部署配属をしています。

どの程度の技術をもって『一人前の職人』と定義するかは難しいですが、一通りの加工をこなせるようになるには10年かかると言われています。ですので、最初はとにかく「3ヶ月でここだけはできるようになった」、「5ヶ月でもっとできるようになった」と段階を踏ませることで、自身の成長を感じることができ、加工者のモチベーション向上に繋がる仕組みを整えています。



「人生の目標」を考える研修を実施

社内研修としては自己啓発のためにDPM (Dynamics of Personal Motivation®)(注2)を取り入れています。

従業員の生活が「とにかく働いて、給料が手に入ればちょっとリフレッシュをして、また働いて…」といったことの繰り返しになってしまわないように、自分の長い人生をどう生きるのか、自分の人生の目標を考えてもらうことを目的としています。「一人の個人としてどう生きるか」にスポットを当てているので基本的に会社は関わらないようにしています。そのため、私自身も研修開始の挨拶をするのみで研修の中身には参加していません。すべての研修が終わった後、新たな目標を見つけて退職する従業員もいるほどですが、企業風土を形成するのに役立っている研修だと言えます。

また、この研修は講師ではなく従業員が主体となって話し合いを進めていくので、最後の成果発表まで従業員が一体となって行えるのがメリットだと感じています。さらに、これまで自部署のみだった関係が他部署にも広がり、相談や話ができる人が増え、客観的な意見を得ることもできるので、人生設計以外にもプラスアルファの価値がもたらされていると感じています。

業界動向

半導体業界はメモリー半導体の過剰在庫が原因で、2022年後半から現状までは非常に悪い状態が続いています。しかし、2023年度の当社の業績はおかげさまで増収増益となりました。その要因の一つとしては2022年度にできていなかった価格転嫁が進んだことが挙げられます。石英ガラスなどの原材料費は高騰していますが、ありがたいことに製品の販売価格の値上げはある程度取引先にもご理解いただいております。取引先からの要望に応える形で設備投資を継続していることが要因の一つだと思いますが、おかげさまで適正価格での受注ができ、業績向上に繋がっています。

また、前期の受注残があったことに加えて、半導体メーカーがBCP対策や今後の受注に備えて石英部材の在庫を積み増したことから、当社としては売上の拡大ができました。今後については、データセンターにおいてHDD(注3)からSSD(注4)への転換が加速しており、今後もマイクロチップの需要が増える続けることは確かです。そういったことも見越して、投資を続けていかなければならないと感じています。そこで福島に新たな3つの工場の建設を予定しており、既に2つの工場は着工済みです。なかでも福島県田村市に新設予定の田村工場は、敷地内に再生エネルギーの余剰電力で水を電気分解する水素製造装置を設置し、生成したグリーン水素を当社の工場含め福島県下の工場や周辺地域で使用する、という計画のもと建設が進んでおり、水素業界では非常に注目いただいています。

将来の抱負・今後の展望

OEM供給に取り組みたいです。ヒメジ理化イノテックというグループ会社では、加工した石英ガラスを含めた装置の製造を行っているのですが、今後は石英ガラスのパーツを納めている取引先にユニットや装置の一部として供給していきたいと考えています。バラバラに調達していたものをまとめて調達できるというところで付加価値を高めていきたいです。

また、後継者の育成にも力を入れて取り組みたいです。社長に就任して8年経ちますが、あまり長く居座ってしまうと弊害も出てくると考えていますので、若い世代へ手くバトンタッチできればと思います。

グッドカンパニー大賞グランプリを受賞して

賞を受賞するために何か特別なことに取り組んだというわけではありません。普段の取り組みを評価していただきました。「いい会社」を目指して今まで経営に取り組んできましたが、それらの成果を自分たちで評価するのは難しいです。そこで今回、第三者からの評価として“いい会社賞”(グッドカンパニー大賞)をいただいたのは非常に良かったと思っています。何か特別なことはしなくても、賞を受賞したいという想いがあれば自然と良い会社になっていけるのではないかと思います。

- (注1) 全国の中堅・中小企業の中から、経済的、社会的に優れた企業に向けて表彰される。公益社団法人中小企業研究センター主催。
- (注2) パーソナル・モチベーションとトータルパーソン・コンセプトにもとづく、企業・組織の人材資源を飛躍的に活性化するプログラム。
- (注3) ハードディスクドライブの略。
金属製のディスクにデータの書き込み・読み取りを行う。
- (注4) ソリッドステートドライブの略。
フラッシュメモリ(半導体)にデータの書き込み・読み込みを行う。

会社概要

所在地: 〒671-2111
兵庫県姫路市夢前町杉之内17
TEL: 079-336-3221
FAX: 079-336-3223
URL: <https://www.himejirika.co.jp/>

